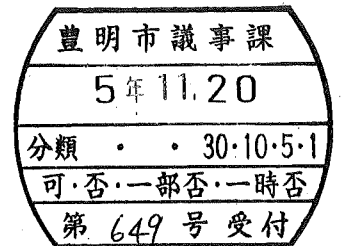


様式第2号

5年 11月 20日

豊明市議会議長 殿



行政等視察報告書

議員名 　いとうひろし

令和5年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和5年10月25日	青森県弘前市	投票率向上につながる投票環境の整備について
令和5年10月26日	岩手県盛岡市	食と農のバリューアップ推進について

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

令和5年10月29日

会派 豊政会

いとうひろし

豊政会・公明党・たんぽぽ 合同行政視察報告書

視察日程 2023年10月 25 日水曜日～26 日木曜日

視察先 1. 青森県 弘前市 投票率向上に向けた取り組みについて 13時～
2. 岩手県 盛岡市 食と農バリューアップ推進戦略について 14時～

会派委員 ・豊政会 三浦桂司・月岡修二・いとうひろし
・公明党 一色美智子
・ひまわり 堀内ちほ 計5名

1. 青森県 弘前市

①人口・世帯(令和5年10月1日現在。推計人口)

人口:16998人 世帯数71120世帯

②産業別就業者数(令和2年国政調査)

第1次産業:13.2% (豊明市:1.0%)

第2次産業:15.7% (豊明市:36.6%)

第3次産業:66.3% (豊明市:59.2%)

分類不能 :4.8% (豊明市:3.2%)

③予算規模(令和5年度)

一般会計当初予算額 789.8億円 (豊明市229.6億円)

④近代建築の巨匠 前川國男氏による建築物が県内に8つあり、弘前公園49.2万平方メートル内にある弘前城は全国的に有名であり、園内にある桜は春と冬にイベントがあり春の桜祭りには約200万人の来場者があり、花いかだ・ピンクカーテンと呼ばれ50種2600本の桜が見事に咲き誇ります。冬の12月1日から2月末までの期間hさ「冬に咲く桜」のライトアップがあり人気があります。

また、夏には弘前ねぶたまつりも開催され全国から多くの観光客がお越しになられます。60台10グループの山車行列は圧巻です。

全国の生産量の1/5を占める日本1のりんご産地で、近年では、りんごを原料に作られたお酒で、果実を醗酵させてできた酒のシードル生産も盛んに取り組んでいます。

意見・回答等より

- ① 主権者教育、選挙年齢引き下げに伴う取り組みについては、中学校での出前授業や生徒会での模擬選挙を行っており、20歳の祭典会場では1500の冊子を配布しました。以前は3高校のみでの配布でしたが、現在では9高校に増えて合計で1906冊を高校3年生に配布している取り組みがされている。
- ② 期日前投票について、投票率向上に向けた取り組みは、地元ラジオや広報での周知をし、投票当日も車等にてアナウンスに努めていた。
- ③ 大型ショッピングセンターの1階には設置できず、3階の公共施設部において期日前投票所を設け成果を上げていた。
- ④ 市内の大学への取り組みを行ったが、どの学生が住民票を所得しているのつかめず、苦戦した。今後は大学生に対しても積極的に取り組んでいきたい。
- ⑤ 投票済書はカラー印刷しているが、特に工夫はされている様子は見受けられないが、知事選285枚・市議選250枚・県議会選99枚発行していた。
本市の発行枚数は
- ⑥ オンラインや登録地以外でも投票できるピットリサービスを行っており、選挙啓発ポスターにおいても、小学校や中学校全51校への依頼をしています。
- ⑦ その他として投票所に歌詞なし BGM を流して明るい雰囲気演出しており、この歌詞の無い BGM は投票後のアンケート結果では75%以上の方が良いとの結果でした。

感想・まとめ

本市においても BGM は取り入れたいと感じました。投票場は静かで厳粛すぎる雰囲気となっており、音楽を流すことで明るい雰囲気となります。是非とも取り入れたいと思います。

市内大学生への取り組みで、住民票所得の学生割合や大学へのアプローチが取り組み不十分と感じました。本市も同様であります。今後は市内の2大学への取り組みを考えていきたいと感じました。また投票済書の役割などを私たち参加議員達としっかりと認識したうえで研究を進めていきたい。

弘前市は生産日本1のリンゴや弘前城・ねぶた等を使用しているアイキャッチ的なフレーズがあると良いと感じましたので、本市においても桶狭間古戦場や鎌倉街道等の史跡デザイン等を利用できると良いと思いました。

人口は本市の約2.3倍ですが、当初予算は約3.4倍あります。観光業や農水産業も盛んで観光客を取り込んだ商業も盛んで、伝統文化がしっかり根づいた古くからの地域でした。短時間ではあったが、3会派の議員全員で各々の視点で視察できたのは有意義でした。

2. 岩手県 盛岡市

①人口・世帯(令和5年4月1日現在。推計人口)

人口:284054人 世帯数 132285世帯

②産業別就業者数(令和2年国政調査)

第1次産業:3.3% (豊明市:1.0%)

第2次産業:14.0% (豊明市:36.6%)

第3次産業:80.1% (豊明市:59.2%)

分類不能 :2.6% (豊明市:3.2%)

③予算規模(令和5年度)

一般会計当初予算額 1兆218億7000万(豊明市229.6億円) 伸率△4.5

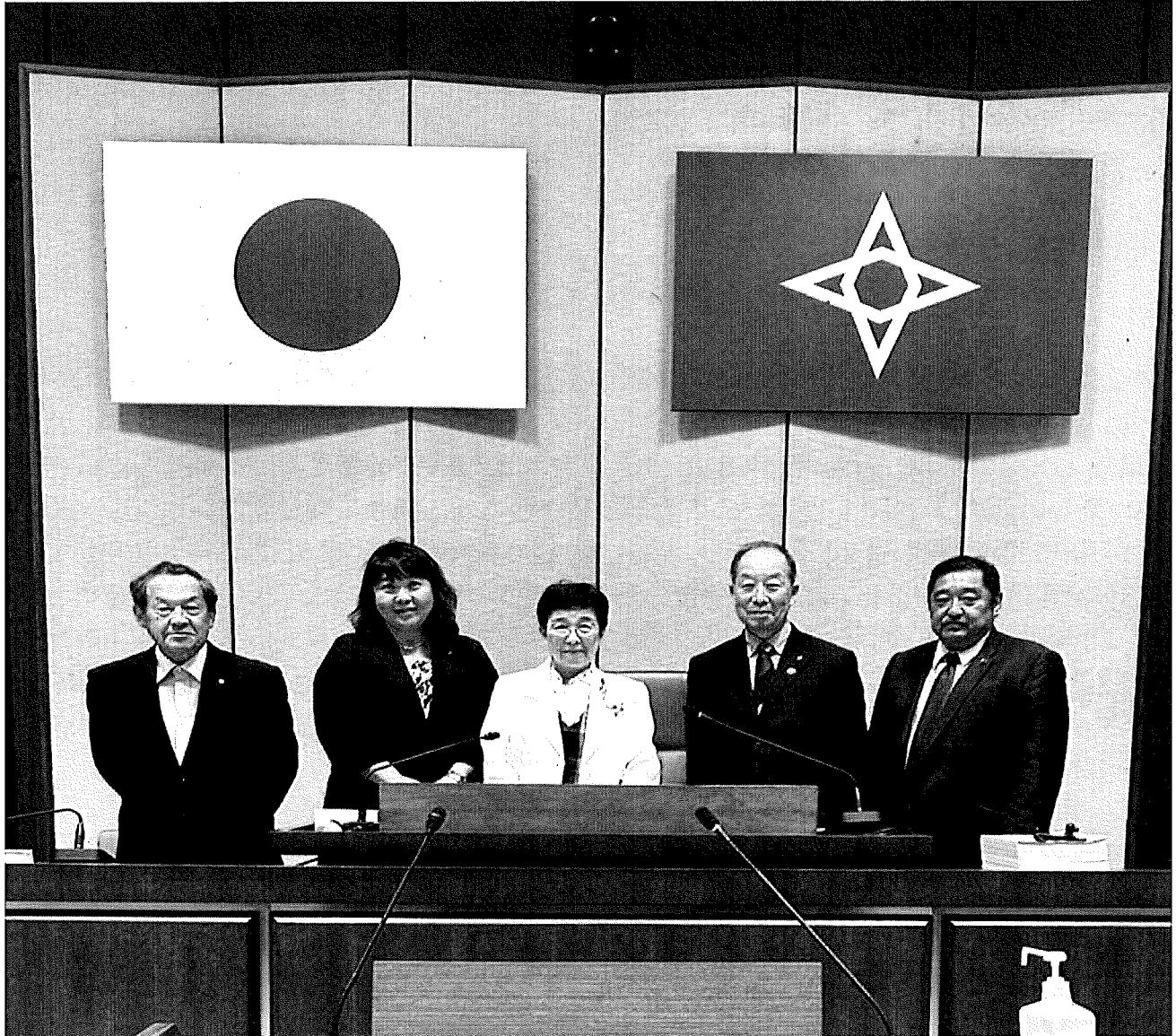
④盛岡市は、1989年に市制施行100周年を迎えるとともに、1992年4月には新しい中核都市の形成を標榜し南に隣接する都南村と、2006年1月には北に隣接する玉山村と合併を果たし、人口約30万人、面積886.47平方キロメートルの新生盛岡市が誕生しました。また、新しい都市づくりとして現在の市街地から南西方向に向けて盛岡駅西口地区や盛岡南地区の都市開発事業が進められており、奇しくも1200年前の平安時代に政庁が置かれていた志波城の方向に向かっており、その後の安倍氏一族の拠点であった厨川柵、藩制時代の南部氏築城の盛岡城と、時計回りでまちづくりが行われてきていると言えます。県庁所在地でもあり、東北新幹線の新青森延伸や秋田新幹線の開通などにより、今後ますます拠点性が高まっており、県全体の発展を誘導し、北東北の交流拠点都市としてさらなる発展を目指しています。周辺10市町に囲まれた山間部で、東京から東北新幹線で2時間10分の距離にあります。また、令和5年1月にニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき52か所」の1つに選ばれたことをきっかけに、国内のみならず海外からの旅行者が増加してきており、「おもてなしの心」でお迎えする体制を整えています。

盛岡市は中核市制度とは、規模能力が比較的大きな都市の事務権限を強化し、できる限り住民に身近な自治体が事務を行うことを目的として、1994年の地方自治法の改正により発足した制度です。

盛岡市は平成20年4月1日に中核市の指定を受けることになりました。中核市とは人口1,000人以下の村から100万人を超える大都市まで約1,700の市町村があります。しかし、これらの市町村は、政令指定都市を除き、法律等によって、ほとんど同じような事務権限が認められていました。そこで、政令指定都市以外で人口20万人以上の要件を満たす規模や能力などが比較的大きな都市の事務権限を強化し、できる限り住民の身近なところで行政を行なうことができるようにした都市制度が中核市制度です。

これにより今まで県が行っていた事務のうち、福祉や都市計画、環境保全、保健衛生など住民生活に身近な分野の事務が移譲され、事務手続きの迅速化や、きめ細やかなサービスの

提供が可能となりました。盛岡市が政令指定都市に準じた都市と位置づけられることから、知名度が上がり、交流人口の増加や企業立地の促進など地域経済の活性化が期待されます。



盛岡市議場にて

意見・回答等より

- ①夏に行われる「盛岡さんさ祭り」も多くの方が来訪され、飲食店数は県内1位となっており、全国においても69位となっています。盛岡の都市圏人口は45万5535人（3市5町、R5.1.1時点）消費地と生産地の距離が短いため安価な価格となり、利益が取りにくい構造になっている。農畜産物産出額では県内2位で全国では58位です。
- ②今回の視察については「美食王国もりおか」をキャッチフレーズとして、「食と農バリューアップ推進戦略」を10のアクションプランに分けて行っており、第1次産業から第6次産業までの取り組みをしており、現在は第6次産業が弱い在今后、力を入れていきたい。

③農畜産物の特徴として、米・野菜類・果物類の農業産出額がほぼ同程度は珍しい。
畜産物の中では養鶏が特に盛んで、農産物は多品種となっている。

④もりおか食と農バリューアップ推進戦略 3つのステップによる将来像

目的……農家所得の向上と食産業の活性化

将来像……第1段階 農畜産物の認知度アップと消費の拡大

第2段階 「食と農」でもりおかの魅力向上

第3段階 来盛者・新規就農者・食産業の担い手が増加

※生産者は所得向上 事業者は収益増加 消費者は積極的に消費

⑤「美食王国もりおか」を立ち上げファンクラブを設立してウェブサイトや各種イベントへ開催への選好募集等の特典を付ける取り組みで約1600名の会員数があり、120店舗がオリジナルメニューを提供しており、オリジナルロゴシールも作成している。

感想・まとめ

森岡へは初めて伺いましたが、織岡駅前はこちらで例えると「金山駅」位の人通りがあり、百貨店もあり、駅前バスターミナルにバスが頻繁に出入りしており、都会の様相でした。

焼き鳥料理のお店も多くありました。野菜・果物もこちらの地域よりも安価で販売されていました。個人店も多く活力を感じ、盛岡市の将来への可能性を感じさせるものでした。

市役所の担当者から色々とお話をお聞きしましたが、担当者の熱意が伝わってきました。

イベントもたくさん実施しており、また、企画・宣伝・広告の仕方がすばらしい。企業・店舗等への訪問も自ら行っており、なかなかできる事ではない。宣伝・広告の仕方の重要性、担当者の何とかしようという気持ちに感動した。

特に生産から加工・販売まで枠組みの概念を超えての様々な取組は大変素晴らしい。

「盛岡の食と農」というものを通して、様々な観点からの活動に対しては、本市も真剣に取り組まなければと感じました。そして、ふるさと納税でも高い評価を受けている。

そのような担当者だから様々なアイデアが浮かんでくるのであろうと思う。今の時代の多様なものに対する柔軟な考え方、捉え方は必要であると感じるが、後継者の育成・確保等により、これらの事業をしっかりと継続していくことが重要なのではないかと感じた。現在は農福連携を積極的に導入している最中であり、期待したい。